

Saijodan

広島城北高等学校サッカー部OB会

広島市東区戸坂城山町 1-3 広島城北学園内 〒732-0015

TEL 082-229-0111 FAX 082-229-0112



40 回生 浅海 友峰

『優勝報告』

監督を務める慶應義塾体育会サッカー部において、関東大学サッカー2部リーグ優勝をおさめ、1部へ3年ぶりに返り咲きました。

監督就任直後から課題や問題はありましたが、いろいろな方に支えられ、OB会報誌に優勝の報告をさせていただけることを嬉しく思います。

1927年創設のサッカー部ですが、過去3人目の広島出身監督だそうで、広島出身の方はもちろん、「俺の恩師が広島出身だ。」「広島に行つたことがある。」なんていう方もわざわざ報告してくれて、広島生まれ、城北育ちとして広島の強い絆を感じる一年でした。

今年一年間、学生とともに作り上げてきたことを少し書かせていただきます。

監督をやるにあたって、シーズン当初に「走って、走って、走る。」というスローガンを掲げました。

今は情報化が進み、世界トップの戦術がデイリーに見れる時代です。もちろん個人、グループ、チーム戦術なしに勝つことは難しいのですが、戦術が勝負を分けるのではなく、走ることで、フアイティングスピリットが勝負を分けるんだ、チームへの犠牲心を持ちなさい、そうじゃないとスポーツ推薦のある大学に勝てないよ、と繰り返し学生に訴えました。

その上で恩師の反町康治監督にお願いして、松本山雅FCさんの闘志あふれるサッカーを見学し、勉強もしました。

有り難かったのは、学生主体の中心のキャプテン、ヴァイスキャプテンを中心とした4年生が同じ気持ちで闘ってくれたことです。シーズン最後の方は彼らの発言と私が言いたいことと一緒に、「これで勝てなかつたら俺の責任だな。」と何度も思ったものです。

我々指導者は時に、特にチームの状態が良いと

自分の力だと錯覚しがちですが、チームが勝てるのは、時にぶつかりながらも必死についてきてくれ、ピッチ内外で身体を張り続ける選手の力であることを忘れてはならない、と強く実感した一年でした。

来年からは、1部の舞台での闘いとなり、苦戦することも多くあると思います。もう来年の戦いは始まっていると、ハードなトレーニングを12月から行っています。

広島城北と慶應に育てられた身として、学生の指導に全力にあたるのが恩返しであると思っています。また良いご報告ができるよう、頑張っていきます。

最後になりますが、一年を通して応援してくださったOB会の皆様、いつも気にかけてくださる宮本先生をはじめとする先生方、誠にありがとうございました。



51 回生 芝 洋斗

『信じる力』

こんにちは。51回生の芝洋斗です。はじめに自己紹介をさせていただきます。

現在九州大学に通っており、工学部生として数学や物理を学んでいる傍ら、ヨット部に所属し、季節問わず毎日のように海に出ています。

先日4年生の先輩方が全日本インカレを最後に引退され、私が九州大学ヨット部第93代主将に就任することになりました。チームを引っ張っていく立場となり、チームについて色々考えている時にふと思いついたのが、広島城北サッカー部でした。なにかヒントが欲しく、宮本先生や岩井先生と連絡を取らせていただいて、この度会報誌を書く機会をいただきました。

今回は部活を通して感じたことを書かせていただこうと思います。先ほどヨット部に所属していると書きましたが、チームの目標は「全日本インカレ優勝」です。ここ数年先輩方が日本一を目指して頑張ってきたものの、入賞止まりでした。今年こそ自分のチームで日本一を掴み取るために何が必要か考えたところ、「チーム力」に行き着きました。もちろんセレクションの集団である私立大学に比べると、大学からヨットを始めた選手がほとんどである私たちは経験や技術の面で劣りますが、優勝校と圧倒的に違ったのはチームの勢いや一体感です。下級生を含めた全員が優勝できると信じて目をキラつかせていました。経験や技術と同じくらい自分たちを信じる力が、勝つために絶対必要なものだと思われました。高校時代は飽きるほど目にした「俺たち最高」の横断幕、毎日当然のように行った朝礼は、間違いなく自分たちの大きな力になっていったんだということをそこで改めて感じました。



広島城北サッカー部での経験は、今でもたくさん学びを与えてくれます。現役のみなさんは、普段当たり前になつていて、とをもう一度見つめ直して欲しいと思います。なぜ大きい声で挨拶をするのか、なぜ感謝の気持ちを持つのか、なぜ自分たちを鼓舞しあつて毎日頑張つていくのか。いろんな答えがあると思いますが、結局どれも、自分たちは勝てる、最後まで信じていることができるかどうかにかかっています。

広島城北サッカー部では、本当にたくさんの貴重な経験をさせていただきました。声を枯らして励まし合い、プレーを讃えあつたり、全員で同じ服を着て一丸となつて相手に挑んだり、輪になつて手を繋いでひとつになつたり。全ての経験が今の僕を形作っています。サッカー部には感謝しかありません。これからも感謝の気持ちを忘れず、一年間精進して参ります。

最後に……。我々九州大学ヨット部は、Facebookにて活動報告やブログを毎日更新しています。気になる方はぜひチェックして応援してください(笑)

県外に住んでいるので、最上段に顔を出して力になることはできませんが、九大ヨット部で日本一を掴み取つて、広島城北サッカー部での経験が卒業後も間違いなく活かされているということを証明してみせます。

現役のみんなも自分たちを信じて、これからも顔晴れ!!!

35回生 春間 純

『雨降れば地固まる』

2005年OB日記企画の第1回目を務めました35回生の春間純です。この度2度目の登板の機会を宮本先生より頂きましたので、喜んで寄稿させて頂きます。約15年が経過しましたが、宜しければ再度お付き合下さい。

私は福岡県の久留米大学医学卒業後、広島に戻り、脳神経外科を専門科に選択しました。広島市内、岡山県内、福山等の病院勤務や大学院での研究生生活を経て、昨年1年間は、パリにある病院に留学するという経験をさせて頂きました。今回は医療に関してというよりは、たつた1年ですが、海外生活で感じたことを中心に話を進めて行きたいと思えます。

まず、フランス留学?となると、フランス語はできるの?と必ず聞かれます。はい、全く出来ません(笑)。英語も達者では無く、高校時代に学んだ「黒瀬 English」を武器に何とか一年間乗り切りました(笑)。

ヨーロッパでの生活は、改めて「日本」を再認識させられました。日本は素晴らしい国、先進国で世界でもトップクラス、と渡仏前の自分は思っていました。何をやるにしても人は親切に教えてくれますし、電車は時間通りに来ます。それが当たり前でした。しかし、帰国した今の自分の感覚としては、日本は「整いすぎている国」です。それも幸せですが、本当にそうでしょうか?

最近LINE等ネット環境が整い、他人とコンタクトをとるのは非常に簡単になりましたが、その為に面と向き合つて話をする機会が激減しました。多くの要因があると思いますが、色々な社会現象の問題はこういったコミュニケーションの欠如がひとつの原因ではないでしょうか?フランス人は本当に話好きです。赤の他人でも関係ありません。例えばこんな場面に遭遇する事がありました。駅でメトロを待っている時に、突然の車

両トラブルで運転中止。日本であればイライラして、この怒りをどこかにつけるところですが、フランス人はそんな時に隣人と話をします。そんなトラブルも何処吹く風と、その会話に多くの人が加わつて至るところで会話の輪ができて、そのトラブル自体を楽しんでいるかの様に映ります。「雨降れば地固まる」と言う表現があてはまるでしょうか?この言葉が今も生きており実践されています。こういった場面を見聞きするたび、人が接するこんな機会は、日本では滅多に目にからなくなつたな一と思つていました。昨今ではスマホを操作したり、音楽を聴いたり、よく言えば「プレイベートを楽しむ」ですが、言葉を悪く言えば、なるべく人と関わらない様にしようといったことになりそうです。話は少し変わりますが、幸いフランスでもサッカーをする機会があり、外国人とも対峙する事がありました。日本人同士では考えられない状況から足が伸びてきたり、当たりが強かったり、こんな環境で本田圭佑や長谷部誠は闘つていたのか、と勝手に彼らをリスペクトしていました。

外国人は本当にマークするのも距離が近いのです。勿論、身体能力に自信があるので裏をとられることが無いのでしょうか。ですが、サッカーをプレイしながらも、この「距離」が実はサッカーだけでなく、それ以外にも色々と通じる物があると感じました。我々日本人は色んな事を恐れて相手に距離を置いてしまい、壁を作つてしまします。外国人だけでなく、他人から話しかけられてもそれに即座に回答することが苦手です。無意識に「距離」をとつてしまつていくのかもしれない。別に悪いことではないのかもしれないが、もう少しこの「距離」を縮めても良いのではないかな?と感じます。それには相手をリスペクトしすぎず、もう少し自分中心に物事を考えて、自信を持つ事が重要になると思います。このために、日頃から自己研鑽することもそうですし、コミュニケーションもしっかりとらないといけません。メールやLINEだけでは駄目です。先のメトロの話のように、多少のトラブルがあつた方が、人と

人が接してコミュニケーションを図るようになり、結果「雨降れば地固まる」となるのではないのでしょうか?とりとめの話でサッカーについては全く話しておらず、この内容では恐らく3度目の登板はないと思います。しかし「コミュニケーション」について、感じたことを述べさせてもらいました。留学、外国生活は本当に良い経験になりました。一般的には海外生活となると「勝ち組」のイメージがありますが、本当は「価値組」になる良い機会だったと思います。(Y治郎さん頂きました笑)。もしこういった機会がある方には、是非経験してもらいたいと思います。

最後に、こういった経験をさせてもらったのも、広島城北サッカー部で過ごした時間があったからこそだと思います。こういった側面からしか応援できませんが、一緒に全国大会に出場できるチームを作り、名実ともに更なる素晴らしいクラブになることを願っています。

2020初蹴りのお知らせ

初冬の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。毎年恒例の“初蹴り”を開催いたします。『最上段』で懐かしい仲間たちとともに、笑顔で1年をスタートしましょう! また、元旦には広島城北サッカー部HPに、宮本監督の決意表明が掲載されます。ご期待ください!

<http://saijodan.com/>

日時 2020年1月3日(金) 11:00 集合
場所 広島城北学園“最上段グラウンド”

広島城北高校サッカー部OB会
会長 吉川英司

※ご家族のみなさんへ：ご本人が、ご入学・ご就職・ご結婚などで不在の場合は、お手数ですが、ご本人までご連絡ください。